

「PRIMERGY RX200 添付マニュアル」の記述への追加・訂正事項

このたびは、弊社のPRIMERGY(プライマジー) RX200をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。本サーバに添付されておりますマニュアル類の内容に追加および訂正事項がございましたので、ここに謹んでお詫び申し上げますとともに、マニュアルをご覧になる場合に下記に示します内容を合わせてお読みくださるようお願いいたします。

平成 15 年 9 月
富士通株式会社

[PRIMERGY RX200 はじめにお読みください(B7FH-1531-01)] (PRIMERGYドキュメント&ツールCD に収録)]**1.本装置でサポートするオプションについて(訂正)** [関連ページ: コンフィグレーションシート(P20)]

本装置では下記のオプションはサポートしておりません。

外部 SCSI 装置接続用ケーブル(PG-CBL002)

[PRIMERGY RX200 ハードウェアガイド(B7FH-1621-01)] (PRIMERGYドキュメント&ツールCD に収録)]**1.本装置でサポートするオプションについて(訂正)** [関連ページ: 全体]

本装置では下記のオプションはサポートしておりません。

外部 SCSI 装置接続用ケーブル(PG-CBL002)

バックアップキャビネット(PG-R1BC4)を接続する場合は、SCSI カード(PG-128)を搭載してください。

2.サーバ本体のシステム状態表示 LED について(訂正) [関連ページ: 1.1 サーバ本体前面(P12)、1.2 サーバ本体背面(P14)]

システム状態表示 LED の状態について下記を訂正いたします。

[誤]サーバ本体内の部品に異常が検出されたときにオレンジ色に点滅します。このランプが点滅している場合は、担当保守員に連絡してください。

[正]サーバ本体内の部品に異常が検出されたときにオレンジ色に点滅、または点灯します。このランプが点滅、または点灯している場合は、担当保守員に連絡してください。

3.サーバ本体の電源ユニット LED について(訂正) [関連ページ: 1.2 サーバ本体背面(P14)]

電源 LED の状態について、下記を訂正いたします。

[誤]電源ユニットが正常に動作しているときは緑色に、電源ユニットに AC 電源が供給されているときはオレンジ色に点灯します。

[正]電源ユニットが正常に動作しているときは緑色に点灯、電源ユニットに AC 電源が供給されているときは緑色に点滅します。

4.BIOS 設定項目(追記・訂正) [関連ページ: Peripheral Configuration サブメニュー : Serial 1 Multiplexer(P90)]

Serial 1 Multiplexer の設定内容について、下記を訂正いたします。

[誤]・Shared: 「System」/「BMC」を自動で切り替えます。本サーバでは使用しないでください。

[正]・Shared: 「System」/「BMC」を自動で切り替えます。リモートコントロール機能とコンソールリダイレクションの併用が可能です。

また、設定内容について、下記の注意を追加いたします。

[注意]本設定を「BMC」または「Shared」に変更した場合は、BIOS セットアップユーティリティを終了後、一旦電源を切り電源ケーブルを抜いてください。再度電源を投入し、POST が終了すると、「BMC」または「Shared」の設定が有効になります。

5.BIOS 設定項目(追記) [関連ページ: 5.3.8 Server メニュー : Event Log Full Mode(P96)]

Event Log Full Mode について、注意事項を追加いたします。

[注意]本設定を変更すると、システムイベントログに記録されているログはクリアされます。変更前に必ずログの確認を実施してください。

6.BIOS 設定情報の退避 / 復元する場合の注意(追記) [関連ページ: 5.5 BIOS 設定情報の退避 / 復元(P113)]

BIOS 設定情報の退避 / 復元を行う場合の注意を追加いたします。

[注意]次のいずれかの操作を行った場合も、必ず BIOS 情報の退避を行ってください。

・Server Management Tool でリモートコントロールの IPMI の設定を行った場合。

(ServerView V3.50 ユーザーズガイド「5 章 Remote Control Service の使用」参照)

[注意]BIOS 設定情報の退避 / 復元は必ず本体添付の「Server Management Tools」ディスクに格納されたツールを使用してください。

ServerStart CD-ROM から作成したツールは使用できません。

[注意]BIOS のバージョン(版数)が異なる場合は、BIOS 情報を復元できません。

7.Remote Control ユーティリティの操作(訂正) [関連ページ: 7.4.2 Remote Control ユーティリティの操作]

サーバ本体の操作を訂正いたします。

[誤]1. ターミナルソフトを使用してコネクションを張った後、[Enter]キーを押します。

以下のメッセージが表示されます。

Login>

2. 以下のコマンドを入力します。

Remote [Enter]

以下のメニューが表示されます。(Remote Control ユーティリティのメニューが表示されます)

[正]1.ターミナルソフトを使用してコネクションを張った後、[Enter]キーを押します。
以下のメッセージが表示されます。

Login>

2.以下のコマンドを入力します。

Remote [Enter]

以下のメッセージが表示されます。

Password>

3. 以下のコマンドを入力します。

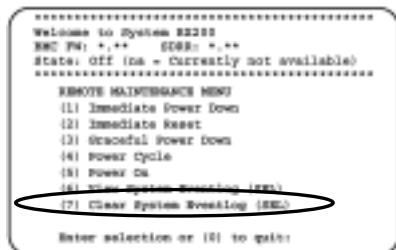
Remote [Enter]

以下のメニューが表示されます。(Remote Control ユーティリティのメニューが表示されます)

7.Remote Control ユーティリティの操作(訂正) [関連ページ:7.4.2 Remote Control ユーティリティの操作(P142/143)]

Remote Control ユーティリティで表示されるメニュー画面、および説明の中で、下記の項目は本装置ではサポートしていません。

(7) Clear System Event Log (SEL)



Remote Control ユーティリティメニュー画面 (P142)

メニュー	動作	メニュー説明欄の動作
Immediate Power On	サーバーは電源が投入されます。	電源が投入された後、以下のコマンドを入力します。 [Enter]
Immediate Reboot	サーバーは強制再起動します。	
Gracious Power Down	サーバーは強制再起動します。 Windows が動作中の場合は、OS のリソースの解放を促します。サーバーは再起動します。	1. 「You currently want to do what? (y/n)」が表示されたら、以下のコマンドを入力します。 [Enter] 2. Windows が動作中の場合は、ポップアップウィンドウが表示されたら以下のコマンドを入力します。 [Enter]
Power Cycle	サーバーは強制再起動します。 Windows が動作中の場合は、OS のリソースの解放を促します。サーバーは再起動します。	System shutdown due to -NETWORK COMMAND- is successful. Press Control-Alt-Del to restart. (電源を再スタート)
Power On	サーバーは電源が投入されます。	
View System Event Log (SEL)	イベントログが読み込まれます。	
Clear System Event Log (SEL)	イベントログがクリアされます。	

Remote Control ユーティリティメニュー一覧 (P143)

8.コンソールリダイレクション使用時の注意(追記)

本装置でコンソールリダイレクションを使用する場合、POST 時下記のキーがご使用になれます。

F1 キー : Network 経由で起動します

F4 キー : BIOS セットアップユーティリティを起動します

F3 キー : Boot メニューを表示します

ESC キー:POST 時のメモリテストをスキップします

9.リモートコントロール機能とコンソールリダイレクションを同じシリアルポート上で実行する場合の注意(追記)

本サーバではシリアルポート 1 にパーソナルコンピュータ(PC)を接続し、リモートコントロール機能とコンソールリダイレクション機能を切り替えて使う事ができます。

[注意]BIOS セットアップユーティリティを以下のように設定する必要があります。

Advanced メニュー/Peripheral Control サブメニューの「Serial 1 Multiplexer」を「Shared」に設定。

Server メニュー/Console Redirection サブメニューの「Console Redirect」を「Enabled」に設定。

設定を変更後、一旦電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。再度電源を投入し POST が終了すると本設定が有効になります。

コンソールリダイレクションからリモートコントロール機能への切り替え

1.コンソールリダイレクションを実行しているターミナルソフトで、[ESC]キーを押した後、[Shit]+[8]キーを押します。

リモートコントロール機能に切り替わります。Remote Control ユーティリティの操作に付いては、PRIMERGY RX200 ハードウェアガイド「7.4.2 Remote Control ユーティリティ」を参照してください。

リモートコントロール機能からコンソールリダイレクションへの切り替え

1.Remote Control ユーティリティを終了します。

Remote Control ユーティリティのメニューで「0」を選択してください。

以下のメッセージが表示されます。

Login >

2.[ESC]キーを押した後、[Shift]+[Q]キーを押します。

ターミナルソフトの画面がコンソールリダイレクションに切り替わります。

[PRIMERGY RX200 トラブルシューティング(B7FH-1811-01)](PRIMERGY ドキュメント&ツール CD に収録)]

ソフトウェアのトラブルシューティングに下記を追加いたします。

B.10 電源投入時、ServerView のイベントログにメッセージが記録される。

本装置にリモートサービスボードを搭載して電源を投入した時、まれに ServerView のイベントログに下記のメッセージが記録される場合があります。

PCI BIST timeout, rebooting Server

このメッセージが記録された場合でも、本サーバの動作は問題ありません。

ただし、連続して複数個のメッセージが記録された場合は、担当保守員までご連絡ください。

[ServerView V3.50 ユーザーズガイド(B7FH-1841-01 Z0-00)](PRIMERGY ドキュメント&ツール CD に収録)]

1.Remote Control Service 使用時の留意事項について(追記) [関連ページ: PRIMERGY RX200 での留意事項(P164)]

PRIMERGY RX200 での留意事項に下記を追加いたします。

・「Server Management Tool」で IPMI を使用するための設定を行った後は、必ず BIOS 情報の退避を行ってください。

また、IPMI モジュールの交換を行った場合は、必ず設定内容を確認し、必要であれば再設定を実施してください。